

# 国経研だより

神奈川大学 国際経営研究所  
〒259-1293 平塚市土屋 2946  
神奈川大学湘南ひらつかキャンパス  
TEL 0463-59-4111 (内線 2200)

## カレッジ・インパクトと新入生の期待

浅海典子

### キャリア教育の広がりと偏り

日本型雇用システムの揺らぎを背景に、キャリア教育が推進され始めてからおよそ10年が経ちます。2011年に改正された大学設置基準では、大学は学生が社会的職業的自立をめざして知識・技能・態度を磨く場であると位置づけられ、学生のキャリア形成への一層の支援が求められています。

神奈川大学経営学部では、このキャリア教育の推進に先駆けて1998年にインターンシップが始まり、2002年には「キャリア形成論」が開講しました。さらに2014年度からスタートした「キャリア・ショップシステム」は、教育課程全体にキャリア形成支援が組み込まれており、しかも「キャリア教育ビジネス」に依存していない点が特徴です。

一斉に広まったキャリア教育ですが、その内容への批判も少なくありません。「やりたい仕事探し」が先行するあやうさや、体験学習や職業人の講話などの実施そのものが目的化していることなどが指摘されています。

もっとも本質的な偏りは、科目や体験が先行して、大学生の在学期間におけるキャリア発達の内実が探求されていない点だと思われます。学生は在学中に学習とキャリア意識の形成にどのように取り組み、職業能力に繋がる汎用的な能力を習得していくのか、その発達過程に迫る試みが不十分なまま、とにかくキャリア教育が進められているといえます。

### カレッジ・インパクトと学生の発達

米国では、さまざまなアセスメントによって大学の影響・教育力(カレッジ・インパクト)と学生の発達との関係が研究されていますが、日本では10年ほど前から大学横断的な調査が始まりました。

UCLA「学生調査」の日本版からスタートしたJCIRP (Japanese Cooperative Institutional Research Program)、「京都大学/電通育英会共同 大学生のキャリア意識調査」、東京大学 大学経営・政策研究センター「全国大学生調査」などはいずれも、学習成果達成を評価するだけでなく、学習および将来への意識や、汎用的能力の獲得に対する大学教育の影響を明らかにする試みです。これらの調査からは、教育プログラムや、諸活動への学生の積極的な関与が、大学への満足感やキャリア意識を高めることが窺われます。

### 1年生アンケート

経営学部学修調査特別委員会では、カレッジ・インパクトが学生に及ぼす影響について、新カリキュラム1期生である2014年度の1年生から調査を始めました。学業、学内外での活動、対人関係、生活時間などの全般的な経験が、成績、キャリア計画、能力向上、大学生活への満足などにどのような影響を与えるか、また卒業時の進路および初期キャリアとどのような関係にあるかを、入学時、2年生、3年生、卒業時、卒業後の5時点で調査し、明らかにする予定です。経営学部での学びが学生の発達をどのように促すかを、長期にわたって、ていねいに調べたいと考えています。

まもなく、1年生アンケートの調査報告書をお届けする予定です。新入生がさまざまな期待を抱いて、経営学部生としての生活をスタートしたことが読み取れることと思います。なお次回の調査は2年生の4月を予定し、経営学部での1年間で学生がどのように変わったのかを明らかにしたいと考えておりますので、ぜひご意見をお寄せください。お待ちしております。

(所員/あさみ・のりこ)

**国際経営研究所**

**主たる研究支援体制、活動状況について**

神奈川大学の研究に関する方針を踏まえ、地域密着型の経営ならびに国際的な経営をも視野に入れた研究推進を目指しています。

**地域、社会との取り組み**

当研究所では今年度も引き続き平塚市の産業活性化プロジェクト関連の活動を支援していきます。本号コラムで平塚市との連携をご紹介します。

**講演会、シンポジウム**

今年度は「アジア」がキーワードですが、後期の公開講演会では4月より客員研究員に就任された大山俊介氏（株式会社ジュピターテレコム常勤監査役）の講演を予定しています。

日時 2014年12月18日（木）13：30～  
 場所 神奈川大学湘南ひらつかキャンパス 1-249  
 テーマ アジアにおける通信インフラビジネスの将来展望（仮題）

多くの方々のご来場をお待ちしています。

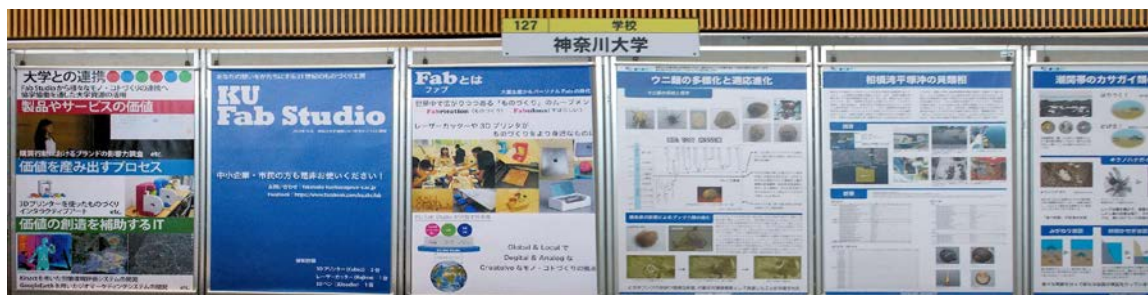


**湘南ひらつかテクノフェア2014から得たこと**

第10回ビジネスマッチングイベントとして、109団体が出展したテクノフェアが開催された（10/23～25 於 カライアリーナ）。平塚市は産業振興部が主軸となって、市長を座長とする産業活性化会議による産業活性化プロジェクトを推進しているが、今年度より「ビジネスケースプロジェクト」の名のもと、《企業－平塚市－大学》を結びつける活動の中から活性化の方途を得る企画を進めている。地元企業からヒアリングし、その成果をPRして関連方面とのビジネスマッチングやオープンイノベーション促進につなげようというものである。当方が活性化会議メンバーのため、今夏（株）トノックス（特装車両メーカー）をゼミナール生と企業訪問し、国経研の後方支援という形で神奈川大学としての成果をまとめた。また、東海大学経済学部亀岡准教授も会議メンバーとして一肌脱ぎ、ゼミとしてまとめて市に提出をされた。それらの概略をポスターセッション的にブースで紹介することになり、フェアを訪れた次第である。展示されていた歴代の日産フェアレディに目を奪われたりしたが、催しは地元メーカーを中心にNPOや高校、大学まで実に多彩な参加があった。

平塚市のブースは神奈川大学のちょうど真向かい。神大はFabStudio（道用先生が尽力。国経研だよりNo.41参照）を下記のようにアピールしていた。国経研所員は経営学部教員と重層的になっているので、先生方の活動と活躍は必然的に研究所を盛り立てていく。これは誠に良いことである。

グローバル社会はローカルコミュニティと繋がっている訳であり、正に足もとからの発信の必要性和価値を強く感じた。（所長／行川） 写真はフェア展示



## ヨルダンの初期イスラームの遺構を訪ねて

阿部 克彦

ヨルダンは、北はシリア、南はサウジアラビア、西はパレスチナ、東はイラクに国境を接する中東の要衝である。今夏、ヨルダンにおける古代からイスラーム初期の遺構を訪れ、おもにウマイヤ朝期の建築とその装飾に関する調査を行った。その目的は、アラビア半島の中部に新興勢力として登場したイスラームが、初期の征服活動によって、当時ビザンツ帝国の一部であったシリア、パレスチナ地方を奪い、そこで培われたヘレニズム期からローマ時代にわたる文化・芸術をいかにして獲得し、新たな独自性を形成していったかを、ヨルダンにのこる建築とその装飾の分析から明らかにするものであった。本稿では、ヨルダンの現地調査を通じて得られた所感を記すとともに、あわせてこの地域のもつ歴史的な意義についても考えてみたい。

首都のアンマンでは、シタデルと呼ばれる Jabal al-Qal'a (城砦の丘)を訪れた。ここは、ウマイヤ朝期の都市における、現存する数少ない宮殿遺構の一つがあることで知られる。ここはまた、十字軍の時代から、初期イスラーム、ビザンチン、ローマ、そして青銅器時代にまでさかのぼる重層的な遺構でもある。ウマイヤ朝宮殿址(写真)では、建物の規模や部屋の配置、周囲のローマ神殿やビザンチンのキリスト教会などの既存の施設との関係性などを調査した。建築様式と装飾においては、ヘレニズム・ローマ起源の文様に、新たに東方のペルシア的要素が加わることによる、イスラーム美術の独自性の萌芽を読み取ることができる。歴史研究においては、おもに文献史料の記述から当時の社会を再構成しようとするが、その舞台を実際に観察し、触れることによって得られる情報もまた、欠かせない貴重な資料となることを、本調査を通じて改めて実感することができた。

今回は、イスラーム期のみならず、ビザンチンからローマ、そしてペトラに代表される古代ナバテア人によってのこされた数々の都市遺跡や宮殿址を訪れることができたが、各地で目にしたのは多くの都市を壊滅させるほどの大地震の爪痕であった。749年1月18日に起きた大地震は、パレスチナ、ヨルダン、シリア各地に大きな破壊をもたらしたと伝えられる。この震災によって、アンマン北部のジェラシュ(古代名ゲラサ)をはじめとする、古代からウマイヤ朝期まで続いた都市の多くが崩壊し、その後再建されることなく放棄された。当時シリアのダマスカスを拠点としていたウマイヤ朝は、この震災直後の750年にアッバース家のアブル=アッバース率いる反乱軍によって滅ぼされる。この政権交代は、かねてから



アンマン城砦 ウマイヤ朝宮殿址 730年頃

## 研究余滴

ウマイヤ朝の支配に対して不満をもつ反対勢力が結集して計画されたものであったが、この大震災がその成功を後押ししたとも言えるであろう。アッバース朝の成立によってイスラーム世界は、その重心がヘレニズム・ローマの文化が色濃く残る地中海沿岸から、東方のメソポタミアのチグリス川河畔に建設された新都バグダードに移ることで、やがてイラン系の人々が活躍するイスラーム帝国へと変貌を遂げていったのである。

我々は、歴史上の王朝や帝国の興亡、あるいは文明の転換点となった要因を、戦争や異民族の侵入、あるいは経済的な変動によって説明することが多い。しかしながら、震災などの大災害の発生によって、社会全体が動揺し、人々のなかに統治者の権威や正統性に対する疑義を生じさせ、盤石と思われた体制や秩序が崩壊するといった事例は過去幾度となく起きている。

ヨルダンを含むパレスチナ、シリア地方では、有史以来、文献史料に記述されているだけでも181回の地震が起こっているとされる。今回の調査で訪れたヨルダンは、このような活発な地震発生地帯にありながら、近いうちに初の原子力発電所が着工する予定であるという。死海のヨルダン沿岸からは、対岸の地平線に、今日の中東情勢の要とも言えるイェルサレムの街の灯りを眺めることができる。この地域のもつ歴史の重みとその影響を顧みる時、今後再びこの地で大地震が発生すれば、どのような結果をもたらすことになるだろうか。後世に文明の転換を引き起こした大震災とならないとは誰が言えるだろうか。(所員/あべ・かつひこ)



## 神奈川大学経営学部

### 第9回 ビジネスプラン・コンテスト開催

君島 美葵子

平塚祭初日の10月25日(土)、新規事業の企画の優劣を競い合う、第9回ビジネスプラン・コンテスト(於 1号館 249号室)が開催された。本コンテストは、平塚信用金庫のご後援を受けており、当日は総合企画部長をはじめとして4名の方々にご参加頂いた。このうち2名は、融資の審査を日常業務とされている。そのような実務的視点から評価を頂けることは、参加学生にとって有意義な機会であったことと思われる。さらに、経営学部からは、道用先生、湯川先生、君島の3名が審査員を担当した。各審査員の専門分野を軸とした質問が次々と投げかけられ、非常に活発な質疑応答となった。プレゼンテーションでは、この質疑応答の10分間が大きなハードルとなる。実際には、10分間以上のやりとりも見られ、参加学生は、念入りに準備した資料をもとに、丁寧に答えようとしていたところが印象に残った。さらに、司会進行は、本年度も竹腰先生にお引き受け頂いた。参加学生からは、発表前のあたたかいお声かけが、よりよいプレゼンテーションへの活力になったと聞いている。

当日のプレゼンテーションでは、7チームによる事業提案がなされた。ビジネス名は、開始時間順に、①「リフォーム業界仲介ビジネス」、②「食事で繋ぐビジネス」、③「就活革命—中小企業と学生のベストマッチング」、④「アプリケーション広



最優秀賞受賞チームのプレゼンテーション

告をペットボトルラベルに記載し販売」、⑤「能力・技術支援企業」、⑥「DNAを用いた新しい婚活ビジネスの提案」、⑦「あなたのCM、伝わりますか?」であった。このうち、経営学部長の後藤先生から最優秀賞を授与された事業企画は、④であった。当該企画は、事業内容の新規性や独創性の評価がもっとも高く、配布資料(事業内容、財務計画)や発表を通じて、その内容をより明確に伝えていた。最優秀賞に次ぐ高得点を得て「平塚信用金庫理事長賞」を獲得した事業企画は、⑤であった。当該企画は、市場のニーズを的確にとらえたところが評価され、④と同様にプレゼンテーションの評価も高かった。

来年度開催予定のビジネスプラン・コンテストは、第10回となる。経営学部主催のイベントとしてその目前まで継続できたことは、各先生のご協力があったからこそである。来年度、記念すべき10回目が盛大に開催されることを期待したい。

(常任委員/きみじま・みきこ)



真剣に質疑応答に臨む参加学生

#### 編集後記

第43号をお届けします。本号では、新カリキュラム始動から半年経過しましたので、浅海先生にご執筆願いました。また、研究余滴には阿部先生から寄稿いただきました。ご高覧ください。

「国経研だより」に掲載可能な情報をお持ちの先生は、編集委員会まで、ぜひご一報ください。(K)